

国際プロジェクトの実践 I

2005 年 11 月 11 日 課題

【ミレニアム開発目標、水問題とインフラ整備】

1990 年代に行われた一連の国際会議における議論をもとに、貧困の削減、保健・教育の改善および環境保護に関する達成目標として「国際開発目標 (International Development Goals)」が国連、経済協力開発機構 (OECD)、国際通貨基金 (IMF)、世界銀行によって策定された。その後、2000 年 9 月の国連総会において、それぞれの目標は拡充され、149 カ国の国家元首の支持を得て「ミレニアム開発目標 Millennium Development Goals: MDGs)」として採択された。

MDGs は 8 つの Goals と 18 の Targets によって構成され、その多くは 2015 年までに達成することとしている。また、MDGs の特徴として、その進捗を定量的に評価できるように 48 の Indicators が設定されていることが挙げられる。

以下に MDGs の目標を記すが、その全容については別紙を参照のこと。

ミレニアム開発目標 MDGs

- Goal 1: Eradicate extreme poverty and hunger
- Goal 2: Achieve universal primary education
- Goal 3: Promote gender equality and empower women
- Goal 4: Reduce child mortality
- Goal 5: Improve maternal health
- Goal 6: Combat HIV/AIDS, malaria, and other diseases
- Goal 7: Ensure environmental sustainability
- Goal 8: Develop a global partnership for development

途上国における生活環境改善や乳幼児死亡率の低下などに広く関係するのが「水」であるとの視点に立つと、MDGs の中でも特に"Goal 7: Ensure Environmental Sustainability"の下にある"Target10: Halve by 2015 the proportion of people without sustainable access to safe drinking water and basic sanitation"が重要であると考えられる。

この Target は、インフラ整備と密接な関係があることにも、その重要性がある。人間が生きるために不可欠な水と、それを供給するために開発される水資源関連インフラと環境問題を取り巻く議論は未だに開発論の焦点になっている。

そこで、MDGs の達成を念頭に、途上国開発における水問題に対してインフラの開発が果たし得る役割、もたらす裨益効果、想定される自然・社会環境影響などについて、ドナー側と反対派との立場を整理して議論せよ。

【参考文献】

World Commission on Dams、**Dams and Development**、2000

モード・バーロウなど、「水」戦争の時代、集英社新書

村上雅博、**水の世紀**、日本経済評論社

中村靖彦、**ウォーター・ビジネス**、岩波新書

松本悟、**被害住民が問う開発援助の責任 インспекションと異議申し立て**、築地書館

松本悟、**メコン河開発 21 世紀の開発援助**、築地書館

The World Bank, **The Water Resources Sector Strategy: An Overview** (February 2003)

世界銀行東京事務所、**水と開発** (パンフレット) など